

武蔵工業大学後援会誌[マイコム]

MI-COM

no. 34 2006.8

後援会長挨拶	p1
平成18年度 評議員会が開催される	p2
平成17年度 事業報告	p3
平成17年度 決算書	p5
平成18年度 事業計画	p6
平成18年度 予算	p7
平成18年度 役員・評議員	p8
平成17年度 「課外活動に対する補助」による援助	p9
Campus Topics	p11
平成18年度 「大学と父母との連絡会」のお知らせ	p15

写真：平成18年度 体育祭



後援会長挨拶



武蔵工業大学後援会長

相模 静夫

「ユビキタス」情報時代のトップランナーへ

後援会の評議員・理事をお引き受けして6年目になる。
MI-COM29号(2004年1月発行)でユビキタスネットワーク社会実現へ
武蔵工大生の頑張りを期待するとエールを送った。
本稿はその続編である。

「日本の企業は失われた15年を脱した」の論調を裏付けるかのように、
政府は2006年6月9日の閣議で「平成17年度ものづくり白書(ものづくり基盤技術振興施策)」を決定した。
国内製造業の現状が非常に好調であることを示した上で、
革新的な製品や技術開発が日本の役割であることを示したものと言える。

工業製品は基本的な構造が変わらないから改良や改善がものいうが、
情報通信の世界では、基本ソフトやシステム構成が変われば全てが変わってしまう。
日本は単体のモノ作りは得意だが、情報化社会での全体を構成するシステム設計を考えることに不慣れで、
産業基盤がハードウェアからソフトウェアに変わってきたことに対する認識がまだまだ弱い。

パソコン基本ソフトやインターネットでは、日本は主導権を握れなかったが、
家電製品や事務機のようにハードとソフトが一体となった組み込み技術は強い。
いつでもどこでも情報が得られる「ユビキタス情報時代」が来たといわれるが、
これは家電や車など現実のモノとネットワークの世界が融合していくことを示している。
ユビキタス技術で勝負がつくのは10年後だろう。組み込み技術の強みを持つ日本はここで頑張れば勝ち目がある。

世界的な情報化社会で高度なシステム・仕組みを作るには開発工程の管理や知的財産権の主張などが重要で、
理系のみでなく文系のセンスも備えた技術経営が出来る人材育成が急務であると考えます。

* * *

武蔵工大は、創立77年、約5万7千人の卒業生が世界中で活躍されています。
環境情報学部も充実し、従来から強みを発揮していた「モノ作り」に加えて
「コト(概念、仕組み)作り」にも優秀な人材の輩出と世界での活躍、
そしてモノもコトもまとめて全体を設計出来る人材育成を武蔵工業大学にお願いし、
後援会としては全面的に支援を図って行く所存です。

武蔵工大には、現在、海外十数カ国から約160名の留学生も勉強しています。
キャンパスはすばらしい国際交流の場です。
学生諸君には、積極的に交流し、お互いの言語や文化を学びあい、仲間作りをして欲しい。
ネットワーク化の進展は、中央集権的な社会から、
多くの小規模な組織・コミュニティが独立して協調する分散型の社会に変貌していく。
武蔵工大生にはユビキタス情報時代のトップランナーとなることを期待します。

*** 平成18年度 評議員会が開催される ***

武蔵工業大学後援会の平成18年度評議員会が、平成18年5月27日(土)午後2時45分から世田谷キャンパス3号館311教室において役員・理事36名(うち委任出席19名)、評議員97名(うち委任出席24名)、顧問1名、後援会事務局5名の出席のもとに開催されました。

評議員会の開催にあたり、相模会長より、後援会の概要や平成18年度評議員の説明の後、新後援会事務局長等の紹介がありました。

続いて、後援会事務局より平成18年度後援会入会者数及び会員数等についての報告があった後、議事に入りました。

議事は事務局より議案ごとに提案・説明され、その後、この説明に基づいて活発な意見交換のもとに審議し採決した結果、原案の通り可決、承認されました。

武蔵工業大学後援会平成18年度評議員会

平成18年5月27日(土)
世田谷キャンパス311教室(五島記念館1F)

1.開会の辞 相模会長

2.報告事項

平成18年度後援会入会者数及び会員数について

3.議 事

第1号議案 平成17年度 事業報告について

第2号議案 平成17年度 決算報告について

2-1 平成17年度 決算報告

2-2 緊急奨学金特別会計決算報告

第3号議案 平成18年度 役員(案)について

第4号議案 平成18年度 事業計画(案)について

第5号議案 平成18年度 予算(案)について

5-1 平成18年度 予算(案)

5-2 緊急奨学金特別会計予算(案)

第6号議案 武蔵工業大学後援会の個人情報保護の取扱いに関する基本方針(案)について

4.そ の 他

5.閉会の辞 千田副会長



*** 評議員会に先立ち、新評議員対象の説明会を実施した



*** 評議員会議事進行風景



*** 審議風景(311教室にて)

4. 学生厚生援助

- 横浜キャンパスへ学生団体用製水機を購入

5. 会報の発行

- 後援会の会誌「MI-COM 32号」を刊行し、会員へ送付（平成17年8月）
- 後援会の会誌「MI-COM 33号」を刊行し、会員へ送付（平成18年1月）

6. 新入生研修行事（フレッシュマン・キャンプ）に対する援助

平成17年4月7・8日（工学部・環境情報学部）に実施された新入生を対象とした研修行事に対して援助

7. 就職活動に対して援助

進路・就職適正検査「自己発見レポート」（1年）、「自己プロGRESSレポート」（2年）、「キャリアアプローチ」及び「日経経済常識テスト」（3年）を実施

8. 後援会緊急奨学金

会員の家計急変により学業の継続が困難な学生に対して授業料相当額（全額又は半額）を貸与する緊急奨学金は、平成17年度は、対象者なし

9. 後援会案内等の送付

平成18年度各入学試験合格者の合格通知に後援会パンフレットを同封して発送

一般入試（前期）	平成18年2月10日（環）
	平成18年2月12日（工）
センター試験利用入試	平成18年2月10日（環）
	平成18年2月12日（工）
一般入試（後期）	平成18年3月4日（工・環）

10. その他（大学行事への協力等）

- 平成17年度入学式に相模会長が来賓として出席し祝辞（平成17年4月2日）
- 大学へ「課外活動奨励賞」の候補者の推薦依頼
- 大学へ「後援会長賞」の候補者の推薦依頼
- 平成17年度学位授与式に相模会長が来賓として出席し、後援会長賞を授与（平成18年3月19日）



後援会長賞授与

2

運 営

1. 理事会（2回）

- 平成17年5月14日（土）
 - 第1号議案 平成16年度 事業報告について
 - 第2号議案 平成16年度 決算報告について
 - 2-1 平成16年度決算報告
 - 2-2 緊急奨学金特別会計決算報告
 - 第3号議案 平成17年度 事業計画（案）について
 - 第4号議案 平成17年度 予算（案）について
 - 4-1 平成17年度予算（案）
 - 4-2 後援会緊急奨学金会計予算（案）
 - 第5号議案 平成17年度 役員候補者について
- 平成17年11月19日（日）
 - 第1号議案 平成17年度 後援会事業経過について
 - 第2号議案 後援会の次年度に向けての運営について
 - 2-1 平成18年度 後援会主要会議等日程（案）
 - 2-2 平成18年度 後援会役員、評議員構成（案）
 - 第3号議案 武蔵工業大学後援会会則の変更（案）について
 - 第4号議案 平成18年度フレッシュマン・キャンプ（新入生研修行事）の補助について
 - 第5号議案 武蔵工業大学後援会長賞の推薦及び選考方法の変更（案）について
- 報告事項
 - 1. 平成17年度 「大学と父母との連絡会」の結果について
 - 2. その他

2. 評議員会（1回）

- 平成17年5月28日（土）
 - 第1号議案 平成16年度 事業報告について
 - 第2号議案 平成16年度 決算報告について
 - 2-1 平成16年度決算報告
 - 2-2 緊急奨学金特別会計決算報告
 - 第3号議案 平成17年度 事業計画（案）について
 - 第4号議案 平成17年度 予算（案）について
 - 4-1 平成17年度予算（案）
 - 4-2 後援会緊急奨学金会計予算（案）
 - 第5号議案 平成17年度 役員候補者について
 - 第6号議案 武蔵工業大学後援会会則の変更（案）

なお、当日は評議員会に先立って、新たにお願する評議員の方々の学内見学を行い、また評議員会終了後には、大学教職員との懇談会を開催した

3. 会計監査

平成17年4月23日（土）
辻、岡野両会計監査により、平成16年度の会計監査を実施

4. その他

後援会事務担当者の採用（専任・アルバイト 平成17年4月～平成18年3月）

＜平成18年度後援会会員数＞（平成18年5月1日現在）

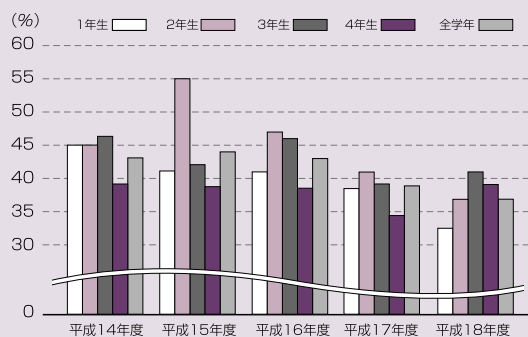
●学部

学年	工 学 部										環境情報学部	
	機械	機械システム	電気電子情報	電子通信	コンピュータメディア	建築	都市基盤	システム情報	環境エネルギー	環境情報	情報メディア	合計
1年生	132	113	108	101	103	129	104	101	82	215	243	1431
2年生	122	106	104	91	100	117	102	91	79	194	213	1319
3年生	115	110	107	98	103	122	107	104	78	193	234	1371
4年生	130	126	133	129	106	139	126	143	62	225	271	1590
合計	499	455	452	419	412	507	439	439	301	827	961	5711

●大学院

専攻 学生	工 学 研 究 科								環境情報学 研究科	
	機械	機械システム	電気	建築	都市基盤	経営	エネルギー	量子	環境情報	合計
修博 合計	31	47	145	42	37	33	42		43	420

＜過去5年間の在学生クラブ加入率＞



平成17年度 決算書

平成17年4月1日～平成18年3月31日

科 目	平成17年度 予算	平成17年度 決算	差 異	備 考
(収 入 の 部)	(円)	(円)	(円)	
1. 会費	67,010,000	67,010,000	0	◎新入生の加入者
2. 雑収入	15,000	12,276	2,724	◎利息収入
3. 前年度繰越金	5,884,996	5,884,996	0	
収入の合計	72,909,996	72,907,272	2,724	
(支 出 の 部)				
事業費	59,920,000	54,973,637	4,946,363	
4. 正課外教育援助費	31,000,000	27,516,762	3,483,238	◎援助の内容については下表を参照
5. 父母連絡会費	4,200,000	4,195,025	4,975	◎全国各地で年1回大学と共催
6. 大学行事協力費	2,800,000	2,620,000	180,000	◎体育祭、MI-TECH横浜祭、MI-TECH祭等
7. 学生厚生援助費	1,000,000	393,750	606,250	◎厚生設備等への援助
8. 会報発行費	4,000,000	3,769,500	230,500	◎後援会広報誌の作成(2回)
9. 新入生研修行事費	10,920,000	10,920,000	0	◎全学的に行うフレッシュマンキャンプに係わる援助
10. 就職活動援助費	6,000,000	5,558,600	441,400	◎就職関連テスト等
運営費	8,650,000	7,669,006	980,994	
11. 事務費	4,700,000	4,440,185	259,815	◎人件費、事務委託費、消耗品費
12. 会議費	800,000	636,867	163,133	◎理事会、評議員会等
13. 印刷・通信費	1,200,000	1,093,284	106,716	◎通知、案内の郵送、印刷代
14. 旅費・交通費	1,800,000	1,468,200	331,800	◎地方評議員、役員の旅費
15. 備品費	100,000	7,980	92,020	◎後援会関係の備品、什器
16. 雑費	50,000	22,490	27,510	◎振込手数料等
予備費	300,000	261,125	38,875	◎慶弔費等
特別会計	4,000,000	4,000,000	0	
17. 後援会基本積立	0	0	0	
18. 記念事業費積立	4,000,000	4,000,000	0	◎大学創立記念事業協力
19. 学生事故対策援助費積立	0	0	0	◎学生事故対策として1,000万円まで積立完了
20. 特別課外活動援助費積立	0	0	0	◎大規模な対外遠征援助500万円まで積立完了
小 計	72,870,000	66,903,768	5,966,232	
次年度繰越金	39,996	6,003,504	▲ 5,963,508	
支出の合計	72,909,996	72,907,272	2,724	

※予算に対し決算が超過した場合に▲印を付した。

正課外教育援助費内訳

科 目	平成17年度 予算	平成17年度 決算	差 異	援 助 対 象
正課外教育援助費	31,000,000円	27,516,762円	3,483,238円	
課外活動援助費	29,800,000	26,561,883	3,238,117	◎(ア)(イ)(ウ)(エ)は「課外活動に対する補助制度」の費用 (オ)は強化指定団体制度により運用
内訳				
(ア)学団連援助	17,500,000	17,500,000	0	◎学団連、体育会・文化団体連合会、同好会連合、MI-TECH祭実行委員会、MI-TECH横浜祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会
(イ)学科研究会等援助	400,000	700,000	▲ 300,000	◎学団連準加盟の学科研究会等各団体
(ウ)一般援助	7,500,000	4,571,183	2,928,817	◎課外研究、対外活動、情報収集活動、環境向上運動、用具整備、特別企画、地域活動
(エ)学生行事援助	1,300,000	774,200	525,800	◎スプリングフェスティバル、ミュージックフェスティバル、ナイトラリー等
(オ)団体強化援助	1,200,000	1,200,000	0	◎強化指定団体
(カ)その他の援助	1,900,000	1,816,500	83,500	◎シャトルバス援助
学生顕彰費	800,000	649,049	150,951	◎課外活動奨励賞、後援会長賞等
学生生活指導費	400,000	305,830	94,170	◎リーダー教育、救命講習会受講料援助等

緊急奨学金決算書

経 常 収 入 の 部	当期 予算	当期 実績
前 年 度 繰 越 金	9,955,135円	9,955,135円
緊急奨学金返済収入	3,791,000	2,768,000
利 息 収 入	80	86
経 常 収 入 計	13,746,215	12,723,221
経 常 支 出 の 部		
緊急奨学金貸付支出	2,680,000	0
貸 倒 損 失		
経 常 支 出 計	2,680,000	0
経 常 収 支	11,066,215	12,723,221



1

事業

1. 正課外教育援助

学生の課外活動のより一層の活性化をはかるため、学生団体及び学生行事等に対して援助

課外活動援助

- 学生団体連合会へ課外活動の援助金
- 学生団体連合会へ準加盟の学科研究会の連合団体等へ組織運営のための援助金

*以下の2項目の援助については、援助希望団体(個人)の申請に基づき、大学学生部の意見を受けて決定

- 「課外活動に対する補助制度」による一般補助
課外研究、対外活動、環境向上活動、情報収集活動、用具整備、特別企画、地域活動、活動奨励等
- 学生行事への援助
ミュージックフェスティバル、ナイトラリー、公開企画、特別行事等に対する援助
- 強化団体指定による援助
関東リーグ相当クラスの上位リーグで活躍する団体に対して、チーム強化のための援助(関東リーグ3部以上相当:関東ランキング24位前後以上を目安)
- その他の援助
シャトルバス運行の援助

学生顕彰

- 課外活動奨励賞の授与
学生表彰授賞式において、課外活動奨励賞として、賞状及び副賞を授与
- 後援会長賞の授与
学位授与式(卒業式)において、課外活動に貢献した学生約20名を表彰し、賞状及び副賞を授与

学生生活指導

学生生活指導に対する援助



お・知・ら・せ

武蔵工業大学後援会
ホームページ随時更新!

本会のホームページはもうご覧になりましたか? 本会の事業内容・活動状況をはじめ、MI-COM(マイコム)のバックナンバー等、武蔵工業大学後援会に関する様々な情報を掲載しております。内容の更新も随時行っておりますので、是非ご利用ください。

ホームページアドレス

<http://www.comm.musashi-tech.ac.jp/~kouenka>



- 学生団体の責任者を対象とした「リーダーズ研修会」の費用の一部援助
- 安全教育として学生団体を中心に「救命講習会」の受講を義務付け、その費用を援助
- 学生(留学生含む)の国際交流活動に対し援助
- その他学生生活指導上必要とみとめられる事柄

2. 「大学と父母との連絡会」の開催

全国各地において「大学と父母との連絡会」を共催
今年度は、本学会場(世田谷キャンパス・横浜キャンパス)を含め24会場で開催
本学会場は、平成18年9月30日(土)を予定

3. 「役員・評議員と大学教職員との懇談会」の開催

平成18年5月27日(土)の評議員会終了後の懇談会にて大学教職員と後援会役員等と歓談

4. 大学行事への協力

大学及び学生が主催する大学行事、企画への援助協力
(体育祭、MI-TECH横浜祭、MI-TECH祭)

5. 学生厚生援助

学生の厚生施設・設備の充実のための援助(学生利用施設)

6. 会報の発行

後援会の会誌「MI-COM」を年2回発行し、学内の動きを父母に連絡するとともに、誌面を通して会員相互の親睦をはかる

7. 新入生研修行事(フレッシュマン・キャンプ)への援助

毎年4月に実施する新入生対象のフレッシュマン・キャンプへの援助

8. 就職活動に対して援助

進路・就職適正検査「自己発見レポート」(1年)、「自己プロGRESSレポート」(2年)、「キャリアアプローチ」(3年)を実施

9. 緊急奨学金の貸与

会員の家計の急変により学業の継続が困難な学生に対し、授業料相当額(全額又は半額)を貸与

2

運営

1. 会議

理事会 2回 平成18年5月20日(土)、11月25日(土) 予定
評議員会 1回 平成18年5月27日(土)

2. その他

後援会事務担当者の採用(専任 平成18年4月1日～平成19年3月31日)

平成18年度 予算

科 目	平成18年度予算	備 考
(収 入 の 部)	(円)	
1. 会費	72,280,000	◎新入生の加入者
2. 雑収入	13,000	◎利息収入
3. 前年度繰越金	6,003,504	
収入の合計	78,296,504	
(支 出 の 部)		
事業費	61,536,000	
4. 正課外教育援助費	31,100,000	◎援助の内容については下表を参照
5. 父母連絡会費	4,200,000	◎全国各地で年1回大学と共催
6. 大学行事協力費	2,800,000	◎体育祭、MI-TECH横浜祭、MI-TECH祭等
7. 学生厚生援助費	700,000	◎厚生設備等への援助
8. 会報発行費	4,000,000	◎後援会広報誌の作成(2回)
9. 新入生研修行事費	11,536,000	◎全学的に行うフレッシュマンキャンプに係わる援助
10. 就職活動援助費	7,200,000	◎就職関連テスト等
運営費	7,850,000	
11. 事務費	3,900,000	◎人件費、事務委託費、消耗品費
12. 会議費	800,000	◎理事会、評議員会等
13. 印刷・通信費	1,200,000	◎通知、案内の郵送、印刷代
14. 旅費・交通費	1,800,000	◎地方評議員、役員の旅費
15. 備品費	100,000	◎後援会関係の備品、什器
16. 雑費	50,000	◎振込手数料等
予備費	300,000	◎慶弔費等
特別会計	4,000,000	
17. 後援会基本積立	0	
18. 記念事業費積立	4,000,000	◎大学創立記念事業協力
19. 学生事故対策援助費積立	0	◎学生事故対策として1,000万円まで積立完了
20. 特別課外活動援助費積立	0	◎大規模な対外遠征援助500万円まで積立完了
小 計	73,686,000	
次年度繰越金	4,610,504	
支出の合計	78,296,504	

正課外教育援助費内訳

科 目	平成18年度予算	援 助 対 象
正課外教育援助費	31,100,000円	
課外活動援助費	29,900,000	◎(ア)(イ)(ウ)(エ)は「課外活動に対する補助制度」の費用 (オ)は強化指定団体制度により運用
内訳		
(ア) 学団連援助	17,500,000	◎学団連、体育会・文化団体連合会、同好会連合、MI-TECH祭実行委員会、MI-TECH横浜祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会
(イ) 学科研究会等援助	800,000	◎学団連準加盟の学科研究会等各団体
(ウ) 一般援助	7,500,000	◎課外研究、対外活動、情報収集活動、環境向上運動、用具整備、特別企画、地域活動
(エ) 学生行事援助	1,000,000	◎ミュージックフェスティバル、ナイトラリー等
(オ) 団体強化援助	1,200,000	◎強化指定団体
(カ) その他の援助	1,900,000	◎チャトルバス援助
学生顕彰費	800,000	◎課外活動奨励賞、後援会長賞等
学生生活指導費	400,000	◎リーダー教育、救命講習会受講料援助、学生の国際交流指導等

緊急奨学金予算書

経 常 収 入 の 部	当 期 予 算
前 年 度 繰 越 金	12,723,221円
緊急奨学金返済収入	3,993,500
利 息 収 入	80
経 常 収 入 計	16,716,801
経 常 支 出 の 部	
緊急奨学金貸付支出	2,680,000
貸 倒 損 失	
経 常 支 出 計	2,680,000
経 常 収 支	14,036,801



平成18年度 役員・評議員



役員 (敬称略)

会長	相模 静夫	経営工学専攻	(再)
副会長	千田 哲也	機械システム工学専攻	(再)
副会長	榎本 英雄	電気工学専攻	(新)
会計監査	近藤 亮平	機械システム	(新)
会計監査	野村 侃彦	情報メディア	(新)
理事	野口 雅人	機械工学専攻	(再)
理事	松井 敏明	電気工学専攻	(再)
理事	井澤 邦輔	環境情報学専攻	(再)
理事	松居 正	電気電子	(再)
理事	桑名 好治	機械システム	(再)
理事	石戸谷 重徳	機械	(再)
理事	森谷 正彦	電気電子情報	(再)
理事	角田 孝	コンピュータ・メディア	(再)
理事	河村 光治	建築	(再)
理事	廣川 輝誉嗣	建築	(再)
理事	長崎 俊夫	システム情報	(再)
理事	櫛山 和彦	情報メディア	(再)

理事	宮崎 尚	機械	(再)
理事	羽室 俊昭	電気電子情報	(再)
理事	落合 勇	電子通信	(再)
理事	山藤 幹夫	コンピュータ・メディア	(再)
理事	井上 淳	環境エネルギー	(再)
理事	阿部 賢一	環境情報	(再)
理事	稲瀬 彰	機械	(新)
理事	室井 信一	機械システム	(新)
理事	関野 光久	電子通信	(新)
理事	前田 仁	都市基盤	(新)
理事	佐野 遵	環境エネルギー	(新)
理事	高瀬 経行	環境情報	(新)
理事	森 恵次郎	情報メディア	(新)

顧問	学長	中村 英夫
顧問	教授	浅野 証世



評議員 (敬称略)

税所 廣志	宮崎県	電気工学専攻	(再)
笠原 徹	神奈川県	都市基盤工学専攻	(再)
長尾幸次郎	岡山県	電気工学専攻	(再)
桑田 哲夫	東京都	電気工学専攻	(再)
川本 裕資	群馬県	建築学専攻	(再)
木村 喜一	埼玉県	電気電子	(再)
沼田 実	青森県	電子通信	(再)
増田 和茂	東京都	都市基盤	(再)
高田 育紀	栃木県	情報メディア	(再)
水野 博次	神奈川県	機械	(再)
磯貝 興作	広島県	機械	(再)
神谷 哲夫	愛知県	機械	(再)
寺島 宏	長野県	機械システム	(再)
福永 徹	鹿児島県	電気電子情報	(再)
玉浦 裕	東京都	電子通信	(再)
石丸 栄一	福岡県	コンピュータメディア	(再)
猪熊 康夫	静岡県	コンピュータメディア	(再)
田内 純吉	高知県	建築	(再)
中村 誠一	宮崎県	建築	(再)
菅原 次郎	神奈川県	都市基盤	(再)
関根 孝夫	埼玉県	都市基盤	(再)
横松 宏明	栃木県	都市基盤	(再)
望月 俊治	山梨県	システム情報	(再)
赤羽 功司	東京都	環境エネルギー	(再)
永田 豊	千葉県	環境エネルギー	(再)
右近 義隆	東京都	環境情報	(再)
広瀬 春彦	神奈川県	環境情報	(再)
関本 準一	新潟県	情報メディア	(再)
岡野利喜造	群馬県	機械	(再)
木下 真一	神奈川県	機械	(再)
森嶋 信夫	石川県	機械	(再)
小林 紀夫	東京都	機械システム	(再)
内藤 節雄	徳島県	機械システム	(再)

菱沼 行男	茨城県	機械システム	(再)
古屋 優	東京都	電気電子情報	(再)
山田 昌義	静岡県	電気電子情報	(再)
伊藤 俊郎	宮城県	電子通信	(再)
中村 研八	東京都	電子通信	(再)
阿部 正	秋田県	コンピュータメディア	(再)
大塚 弘一	長野県	コンピュータメディア	(再)
遠藤 國雄	福島県	建築	(再)
谷内 正建	神奈川県	建築	(再)
石澤 秀夫	栃木県	都市基盤	(再)
三井 勝巳	富山県	都市基盤	(再)
安藤 隆雄	大分県	システム情報	(再)
桜井富美夫	東京都	システム情報	(再)
杉本 貴英	神奈川県	環境エネルギー	(再)
堀内 和代	長野県	環境情報	(再)
堀口友四郎	神奈川県	環境情報	(再)
山村 雅之	東京都	情報メディア	(再)
高橋 正憲	東京都	機械	(再)
永田 浩二	鹿児島県	機械	(再)
林 秀寛	沖縄県	機械システム	(再)
小野 浩孝	静岡県	電気電子情報	(再)
児玉 雅俊	東京都	電気電子情報	(再)
鈴木 正幸	静岡県	電気電子情報	(再)
長谷川淳治	神奈川県	電子通信	(再)
江崎 長昭	神奈川県	コンピュータメディア	(再)
杉山 淳史	北海道	コンピュータメディア	(再)
堤 唯見	千葉県	コンピュータメディア	(再)
柳 邦宏	神奈川県	建築	(再)
青沼 富重	長野県	システム情報	(再)
片山 勝美	愛知県	システム情報	(再)
久保田秀夫	東京都	システム情報	(再)
佐々木知哉	東京都	環境情報	(再)
持田 康	山梨県	環境情報	(再)

小林 裕	神奈川県	情報メディア	(再)
猪俣 忠雄	静岡県	機械	(新)
辻田 誠	東京都	機械	(新)
深谷 智章	東京都	機械	(新)
鈴木 迭充	神奈川県	機械システム	(新)
竹内 清隆	神奈川県	機械システム	(新)
久保 清美	福島県	電気電子情報	(新)
小松 寛	北海道	電気電子情報	(新)
林 孝次	東京都	電気電子情報	(新)
亀井 朗	千葉県	電子通信	(新)
平 博光	東京都	電子通信	(新)
稲川 元	新潟県	コンピュータメディア	(新)
鈴木 博仁	神奈川県	コンピュータメディア	(新)
熊谷 孝二	宮城県	建築	(新)
酒井 満	福岡県	建築	(新)
平井 忠雄	神奈川県	建築	(新)
大庭 政博	神奈川県	都市基盤	(新)
児玉 厚	茨城県	都市基盤	(新)
津田 博之	神奈川県	都市基盤	(新)
板橋 裕	神奈川県	システム情報	(新)
井上 修	神奈川県	システム情報	(新)
三浦 忍	広島県	システム情報	(新)
井内 敏明	広島県	環境エネルギー	(新)
越谷 健一	群馬県	環境エネルギー	(新)
小林 正弘	東京都	環境エネルギー	(新)
荒川 秀雄	東京都	環境情報	(新)
江原 弘美	栃木県	環境情報	(新)
近藤 真一	東京都	環境情報	(新)
齋藤 亘	埼玉県	環境情報	(新)
荒木 泉	静岡県	情報メディア	(新)
田村 高弘	神奈川県	情報メディア	(新)
樋口 謙三	東京都	情報メディア	(新)

※(新)は新任、(再)は再任

平成17年度「課外活動に対する補助」による援助

後援会の事業の一つに「課外活動に対する補助制度」があります。
この制度は、学生たちが自主的な財源確保の努力と合わせて、補助を受けることで、一層の特色ある活動や、高レベルの活動が可能となることを期待して設けられたもの。キャンパスライフの充実に大きく貢献しています。

統括団体への援助

団体名	代表者名	申請件名	決定額
学生団体連合会	鳴海 大輔	今年度の本部及び傘下団体の活動費援助について	17,500,000
学科研究会連合等	本木 豪一 仁井田百合 上原 勝志 八尋 みどり 浅利 航希	今年度の本部及び傘下団体の活動費援助について	700,000

一般補助 第1回分

団体名	代表者名	申請件名	申請理由	決定額
写真部	鶴町 梨紗	他大学との合同展、その他学外展出展の補助	芝浦工大との合同展、4月のみなとみらいギャラリーでの学外展、その他MI-TECH横浜祭、MI-TECH祭への参加等、多くのチャンスを活かし実績を残せたらと思っている。しかしギャラリー代、参加費が多大な出費となり、今後参加断念も余儀なくされているのが現状である。写真焼き機も古く故障しがちとなり購入の必要があるため、少しでも補助希望。	26,250
バスケットボール部	西園 正志	大阪工業大学の定期交流試合費用の補助	バスケットボール部の一つの伝統として、例年大阪工大・武蔵工大が互いに訪問し、心・技・体を共に高めあう目的で交流試合を行っている。定期戦の遠征費等出費がかさむため、学業との両立を保ちながらアルバイトで工面しているが限界がある。補助希望。	20,000
		理工系トーナメント優勝	左記トーナメントにおいて厳しい戦いの中、見事優勝を果たし理工系大学の頂点に君臨した。また主将西園正志（環境3年）がアシスト王を獲得した。	70,000
水泳部	足立 聡史	第81回日本学生選手権水泳競技大会出場経費の補助	第19回関東学生夏季公認記録会において柴田洸輔（コンピュータ・メディア1年）が200mバタフライで制限タイムを突破し日本学生選手権出場を決めた。会場が大阪であり、マネージャー1名同行や前日公開練習の必要等のため、往復交通費・宿泊費・エントリー費の補助希望。	67,120
ラグビー部	斉藤 仁	理工系リーグ優勝	左記大会において全勝優勝を果たした。	100,000
アイスホッケー部	久野 陽介	年間リンク使用料の補助	ここ数年部員数が減少し、練習場使用料が高額なことから部員一人当たりの負担が多くなっている。スケートリンクでの練習を例年に比べ減らしてはいるが、2部昇格のためには今の練習量では足りないのが現状である。補助希望。	450,000
アメリカンフットボール部	八木 隆之	スポーツ保険の補助	財団法人スポーツ安全協会によるスポーツ安全保険のアメリカンフットボール団体加入区分の年間掛金が、1人当たり9,000円と最も高い。部費の徴収で運営努力をしているが、リーグ戦参加費の一部充当にしかならず、補助希望。	165,500
ゴルフ部	望月 高仁	関東学生連盟の加盟費の補助	関東学生連盟の団体加盟費が年間5万円かかるため補助希望。	25,000
フットサル部	石飛 俊	2004神奈川県フットサルリーグ3部リーグ MFP日吉開催	左記リーグ戦において、我が部は10戦中8勝2引分けという素晴らしい成績で優勝。神奈川県フットサル2部リーグ参入戦への出場権を獲得した。	100,000
環境情報学科学生会 情報メディア学科学生会	上原 勝志 八尋 みどり	コピー黒板新規購入の補助	環境情報学科は平成16年度に、情報メディア学科は平成17年度に新規発足した団体のため、同学科学生会共通の部室はいただいたが備品の準備がままならない状態である。同学科学生会共有で使用することを前提とした、ミーティング時における記録をデジタルに保存できるコピー黒板の新規購入の補助希望。	200,000
合 計	9団体		10件	1,223,870

一般補助 第2回分

団体名	代表者名	申請件名	申請理由	決定額
同好会連合	伊東 佳裕	横浜キャンパス同好会連合会室新設のためのPC購入補助	横浜キャンパスにおいて傘下団体の増加における同好会連合会室新設のため、PC及びプリンタ購入の補助希望。	200,175
放送会	小海川 亮	ビデオカメラ用三脚の購入補助	15年来使用のビデオカメラ用三脚が壊れて使用できない状況である。学園祭を含め学事行事の記録映像の撮影等に支障を来すため購入補助希望。	220,500
硬式野球部	内田 真輔	連盟費、分担金等の補助	連盟費が年間36万円と高額であり、OBからの寄付金、部員の臨時徴収でやりくりをしているが厳しい状態である。補助希望。	100,000
ラグビー部	岩本 浩治	スポーツ保険料の補助	スポーツ安全保険への加入37名分、55,500円の半額の補助希望。	27,750
ハンドボール部	染谷 泰央	秋季リーグ戦関東2部リーグ2位。1部との入替戦進出	関東ハンドボール2部リーグの秋季リーグ戦において歴代最高の2位という成績を収め、1部リーグとの入替戦に進出することができた。	50,000
バレーボール部	正井 賢介	春季理工科系大学リーグ戦4部昇格	春季理工科系大学バレーボールリーグ戦において5部より4部に昇格。	30,000



硬式庭球部	福島 貴志	関東理工科大学 団体リーグ戦 硬式庭球連盟 個人トーナメント大会 での活躍	左記団体リーグ戦において、昨年度1部昇格を果たしたばかりの男子部は今年度、全勝優勝を果たした。これは硬式庭球部34年ぶりの快挙である。また同リーグ、女子部は8部全勝にて7部へと、創立以来4年連続の昇格を果たした。他、硬式庭球連盟個人トーナメント大会でも優秀な成績を収め他校を圧倒した。	200,000
アメリカン フットボール部	八木 隆之	新入部員スポーツ保険加入の補助	財団法人スポーツ安全協会によるスポーツ安全保険団体加入区分の年間掛け金が、一人当たり9,000円ととっても高い。今回新入部員12名が加入。毎月の部費徴収で運営努力をしているが、リーグ戦参加費の一部充当にしかならず補助希望。	54,000
合 計	8団体		8件	882,425

一般補助 第3回分

団体名	代表者名	申請件名	申請理由	決定額
学生団体連合会	沖崎 真悟	パソコン購入の補助	現在3台のパソコンを使用しているが、うち1台の老朽化が激しく業務に支障をきたしている。新規購入を考えており、補助希望。	150,193
		印刷機保守費用の補助 (機種FR393)	現在2台の印刷機を所有しているが、1台は多くの部品の損傷が目立ち満足に印刷ができない状態である。修理費用も莫大になるため、新たに1年間保守契約をし修理費用の削減を考えている。補助希望。	50,000
新聞会	錦織 直美	ラグビー部の全国大会出場 に対する取材の補助	2006年1月に行われる「全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会」に本学ラグビー部の出場が決定。この部の記録を全校に広報することは要務である。試合会場が名古屋と遠方でありその費用を捻出することは困難なため、取材費の補助希望。	38,800
鉄道研究部	高橋 辰弥	機関誌「スチールカー」 発行について	当部の研究活動を知っていただくため、機関誌「スチールカー」を発刊。この冊子は一年間の研究成果をまとめたものであり、当部の年間活動の一つである。今年度の年間テーマは「LRの4扉通勤形直流電車」で、MI-TECH祭にて無料配布し高い評価を得た。ページ数は100を越え印刷代が予想より高くなったため部費で賄うには限界がある。補助希望。	30,000
剣道部	本田 徹	剣道連盟加盟費の補助	関東学生剣道連盟は大会の参加に必要な主加盟団体であり、東京都学生剣道クラブは段審査等に必用な団体である。また当部は世田谷六大学学生剣道連盟にも加盟しており、負担が大きいため補助希望。	40,000
ワンダー フォーゲル部	辻横 剛	保険料の補助	我が部の活動場所は主に山岳となっており、危険を伴うものである。事故等万が一の事態に備え保険への加入を義務づけているが、保険料は高額であり部員の負担は多大である。補助希望。	44,300
		関東学生ワンダーフォーゲル 連盟加盟料の補助	関東学生ワンダーフォーゲル連盟に加盟。他大学との情報交換の場であり、また技術向上のため部員には連盟主催の講習会への参加を義務付けている。加盟料の支払いは部費からの負担だけでは限界があり、補助希望。	3,500
水泳部	高橋 和子	冬期練習場レンタル料の 補助	本学には屋内プールがなく、11月以降は辰巳国際水泳場を練習場として使用。1回あたりの使用料が6,400円のため、部費、部員からの臨時徴収では全て払うことができません、補助希望。	57,000
ラグビー部	岩本 浩治	全国地区対抗予選全勝優勝	9月から行われた全国地区対抗予選において全勝優勝を果たした。	100,000
		全国地区対抗大学ラグビー フットボール大会出場	地区対抗予選において全勝優勝し、2006年1月2日から行われる全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会に出場決定。宿泊費、交通費、備品等の補助希望。	1,035,000
ソフトテニス部	菊地 学	春季・秋季リーグ戦 優勝・昇格	関東学生ソフトテニス春季9部・秋季8部リーグ戦優勝。入替戦勝利により7部昇格。関東理工科系4部リーグ戦優勝。入替戦勝利により3部昇格。	200,000
アメリカン フットボール部	八木 隆之	秋季リーグ戦および オールスター戦参加費用の 補助	秋季リーグ戦運営費、登録費に、その他オープン戦、リーグ戦、入替戦参加に多額の費用がかかった。また2部オールスター戦に3名選出され参加費用を負担。補助希望。	100,000
		入替戦出場についての補助	今年度の秋季リーグ戦において、2部Aブロック所属の全8チーム中5勝2敗で2位となり1部との入替戦出場となった。創部以来初の快挙である。1部昇格を目指し、奨励補助希望。	150,000
フットサル部	石飛 俊	関東大学フットサルリーグ 2部A優勝(1部昇格)	本年度から参入の我が部は、関東大学フットサルリーグ2005において2部リーグAに所属。全11チームと対戦し10戦中8勝1敗1分の成績で優勝。1部リーグ昇格を決めた。	100,000
合 計	10団体		14件	2,098,793

☆ 分野は違えど、自然科学の基礎は仕事に生きる

本学OB セコム(株)社長 原口兼正氏特別講演会開催

2006スプリングフェスティバル ●平成18年4月2日(日)

1974年に武蔵工業大学を卒業し、創業間もない日本警備保障株式会社(現セコム株式会社)に飛び込んだ原口兼正氏。現在は代表取締役社長として、ホームセキュリティの世界に次々と革命を起こし続ける同社を率いていらっしゃいます。講演会では、まったく毛色の違う分野に進みながら、仕事の中でいかに大学で学んだ自然科学の基礎が活かされているかという興味深いお話を伺うことができました。ここではそのお話の中から、特に印象に残る部分をダイジェストでお届けします。

■原口兼正氏プロフィール

昭和49年3月、武蔵工業大学電子通信工学科卒業。同年4月に日本警備保障株式会社(現セコム株式会社)に入社。平成17年4月にはセコム株式会社代表取締役社長に就任。



私は子供の頃からラジオ製作やアマチュア無線が好きだったため、大学は工学部に行こうと決めていました。しかしいざ武蔵工業大学に入學し、「交流理論」ですとか「マクスウェルの電磁方程式」といった難解な数学を扱うようになると、到底同級生たちにはかなわないと思うようになったのです。私は基礎的な数式を暗記で何とか済ませているのに、彼らには数式の世界が三次元で見えている。「こんな優秀な連中がいるのでは、自分は卒業しても技術者としては食って行けない」と薄々感じながら学生生活を送っていました。しかしこのことが、私にとっては幸運だったのです。

卒業・就職という頃になって考えたのは、「技術の専門家になってはいけない。自分は山登りやボーイスカウトなど野外活動が好きだから、両方を組み合わせれば何とかできるだろう」ということ。そこで目にとまったのが、日本警備保障(現セコム株式会社)でした。電子システムを活用した警備システムを導入しているということだったので、何かしら関連性があるだろうと考えたわけです。同じような業務を行っている警備会社はほかにもありましたが、創業はセコムが最も早かったので、「何事によらず本家本元の方がオリジナリティがあって良いだろう」と思いセコムを選びました。

今の私は、武蔵工業大学で学んだ電気の知識や技術を仕事で使うことはありませんが、工学部に入って本当に良かったと思っています。理工系を出ている人間は、技術も理解できますし、やろうと思えば営業もできる。しかし逆に、文系の方が理工系の知識が必要な仕事をしようとしても難しい。皆さんもこの大学を選んだということで、人生の第一ステップは成功していると言えるでしょう。

現在私はセコム株式会社の社長をしていますが、「武蔵工大で学んだから、こういう発想ができるのではないか」と思うことが多々

あります。私が大学に入って最初に言われたことは「自然科学とは、人類発生以前から地球上で起こっていることを観察し、それがなぜなのかということを分析し、一般解を求め、予測することだ」ということでした。この考え方が今も私の中に生きているのです。

世の中の人というのはほとんどが“雰囲気”で何となく仕事をしています。しかし私は常に、大学で学んだ“仮説を立てて、証明する”ということを仕事に活かしています。

会社の社長をしていると、時に「会社で起こる事件や事故というのは、自然現象なのではないか?」と思うことがあります。どんなに気を配っていても、ある確率で事故が起こるわけです。しかしそこから逃げることなく、「まず現状ありき」と考えて現象をウォッチし、理解して、一般解を求める。そして常にその先を予測する。このような考え方で仕事を進めることが大切であり、それができるのは私が大学で自然科学を学んだ賜物だと考えています。

大学の四年間は早い。たちまち学生生活は終わりを告げ、あっという間に卒業して社会人となり、気がつくやうに三十歳を迎えます。人生のサイクルは今後どんどん早くなって来ますから、今のうちに自分が三十歳になった時の姿を予測し、計画を立てておくのが懸命だと思います。それも、「何になりたい」というのはもう古い。これからは自分が「何をしたいか」を学生生活の中で追求し、考えておくべきでしょう。

皆さんは今後、学者になり研究者となってノーベル賞を取るかもしれないし、私のように違う道に進むかもしれない。いずれにしろ、これからは受験勉強ではなく、本格的な学問の世界に踏み込むわけです。大学時代に学ぶことが、ぜひ人生の有効な糧となるように努力してください。

平成18年度 体育祭レポート

☆ 体育祭を通じて何かを感じ取って、キャンパスライフに活かして欲しい

●平成18年度体育祭実行委員長 渡辺将仁(機械工学科3年)

平成18年5月16日(火)・17日(水)の二日間にわたり、武蔵工業大学体育祭が世田谷・横浜の両キャンパスで同時開催されました。生憎の天候も忘れさせる、熱気溢れる闘いが繰り広げられました。

平成18年度 体育祭の総括

今年度の体育祭は残念なことに2日間ともに雨が降ってしまい、幾つかの種目において時間の変更や、新たに予定していた馬飛びリレーが中止となるなど、ハプニングの連続でした。

しかし体育祭自体の盛り上がりは例年に負けないものだったと思います。参加者は、世田谷、横浜両キャンパスで約3400人。とくに昨年の好評を受けて行った「耐久腕立て伏せ」は、最後の競技ということで観客が多く、さらに太鼓を使った演出も効を奏し、大いに盛り上がりました。また、今年は閉会式を世田谷・横浜両キャンパス合同で世田谷キャンパスの体育館で行ったのも成功でした。これにより閉会式への参加者が多く、吹奏楽団の演奏の中、盛大な閉会式とすることができました。閉会式後の賞品の引き換えもスムーズに行われました。ただ、競技の審判依頼などの面で各部との連携が事前にあまり取れていなかったのは今後の課題と言えるでしょう。そのため審判の人数が不足するなどの問題も生じましたが、体育会本部OBの先輩方、元連絡員のご協力により、大きな問題に発展しなかったのは幸いでした。

今回の体育祭は、平成18年度体育会本部にとって初めての大事な仕事にも関わらず、新競技への挑戦、閉会式の合同開催など、やるべき課題が山積みでした。しかし、だからこそ、我々にとって非常にやりがいのある仕事となりました。この体育祭を通じて、体育会本部役員はじめ本学生が何かを感じ取り、それを今後のキャンパスライフのプラスにしてくれたのなら、とても光栄なことです。

体育研究室をはじめ、多くの先生方、事務局の方々、体育会本部OBの方々の多大なご協力に感謝いたします。皆様のおかげで大きな事故や問題を起こさずに無事終了することができました。大学行事のひとつでもある体育祭を今年も無事に行えることができたのは、我々体育会にとって大きな財産となっています。

●世田谷キャンパス【開催種目】

卓球／3 ON 3 ／相撲／腕相撲／バレーボール／PK合戦／ソフトボール／耐久腕立て伏せ／テニス／ドッジボール／キックベース／綱引き／リレー／騎馬戦

●横浜キャンパス【開催種目】

フットサル／フリースロー／バドミントン／長縄





第10回 MI-TECH横浜祭レポート

☆ 環境情報学部開設10周年、記念すべき学園祭を彩る数々のイベント

●平成18年度MI-TECH横浜祭運営委員会会長 青山真(情報メディア学科3年)

平成18年6月3日(土)・4日(日)の両日、武蔵工業大学横浜キャンパスにおいて第10回MI-TECH横浜祭が開催されました。環境情報学部開設10周年の節目となる今回、新たな企画を盛り込んで、地域密着型学園祭は今年も大好評でした。



昨年の夏合宿以後、新体制としての組織がスタートしました。まずは運営委員会に所属する者それぞれが理想とする学園祭のイメージを共有する事から着手。それ以後は、企画の立案、広報活動、管理体制の見直しと、実に慌ただしい日々を過ごしてきました。

とりわけ今年は学部開設10周年、横浜祭も10回目を数えることになります。その記念すべき節目にふさわしい学園祭としなければ、ということをお我々は当初から強く意識していました。企画面でも、来場して下さった皆様の心に残るもの、ということを進めて行き、結果、例年以上に豪華なラインナップの「吉本お笑いLIVE」、学術面を大きくアピールする「10周年特別展示」、フィナーレを飾る横浜祭初の試みの「花火」などを催すことになりました。

そして開催日。1日目は朝から曇り空でしたが、最大の心配であった雨が降るまではいかず、盛り上がったいい雰囲気で横浜祭を実施することができました。2日目も快晴というわけにはいきません

でしたが、なんとか天候は持ち、すべての企画を実施する事が出来ました。この日はなんといっても「吉本お笑いLIVE」と「ストリートパフォーマンス」が大盛況でした。「吉本お笑いLIVE」はチケットも完売し、体育館の中は熱気で気温が上がってしまう程でした。「ストリートパフォーマンス」はロータリーを埋め尽くすほどの人の多さで、来場の方々はパフォーマーの繰り出す芸の数々をとても真剣に見入っていました。他の企画も盛況の内に終了することができ、「来場した皆様の心に残るもの」という我々の目標は、ひとまず達成できたように感じています。

このように好評のうちに横浜祭を無事に終了することができたのも、ご指導、ご鞭撻頂きました教職員や、関係者の方々のおかげだと思っています。運営委員会を代表し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

企画内容

6/3(土) ●開祭式 ●ミスコン候補者お披露目 ●フードファイト+クイズ ●神輿 ●フリーマーケット ●フットサル大会 ●バターゴルフ ●ピンゴ ●スタンプラリー ●研究室発表・展示 ●クラブ発表・展示 ●音楽LIVE ●中夜祭

6/4(日) ●お笑いLIVE ●吹奏楽団演奏会 ●演武会 ●スタンプラリー ●研究室発表・展示 ●クラブ発表・展示 ●音楽LIVE ●学生プロレス ●ストリートパフォーマンス ●クイズ ●フリーマーケット ●閉祭式 ●花火 ●後夜祭

☆フレッシュマンキャンプレポート ●都市基盤工学科
1年次クラス担任 吉田郁政

毎年4月上旬、新入生を対象に各学部、各学科において、学友、教員との親睦を目的としてフレッシュマンキャンプが行われています。今年 は4月6、7日に行われ、都市基盤工学科では、筑波の地質標本館、宇宙センター、千葉県我孫子の電力中央研究所の見学を行いました。集合は浅草、花火で有名な墨田川から船に乗り、重要な都市基盤施設のひとつである橋梁を下から見上げながらお台場へと向かいました。そこで東京湾、レインボーブリッジが見える絶景のレストランでバイキング形式の昼食を取りました。毎度のことで すが若者の食欲には圧倒されます。レストランに多少の同情を覚えつつ食事を終え4台のバスに分乗して筑波へと向かい、地質標本館、宇宙センターをそれぞれ見学しました。

2日目の朝、新入生たちは10班に分かれて約1時間あまり、教員、院生たちとのミーティングを行い、大学生活へのアドバイスを受けました。単位の取得、クラブ活動、気の早い学生は就職?のことに至るまで様々な質問が出されます。その後、バスで移動し桜が満開の牛久(シャトーカミヤ、日本最古のワイナリーだそうです)でバーベキューの昼食を楽しみました。個人的には満開の桜、ワイナリー、BBQという絶好の状況でお酒が飲めないのはちょっと残念でした。

最後に電力中央研究所を訪れ各種実験施設の見学・講演など の後、バスに乗り込み渋滞の中、東京を突っ切って世田谷へと戻りました。前夜は遅くまで新しい学友たちと語り合っていたのでしょう。大部分の学生たちはすやすやと夢の中、渋滞も苦になっていないようでした。



●快晴に恵まれたお台場にて班ごとの記念撮影



●墨田川にかかる橋梁



●電力中央研究所にて講演を聞く



●電力中央研究所施設見学

事務局便り



学生部長
平井昭司

平成18年4月より学生部長を拝命され、併せて後援会事務局長を仰せつかることになりました。浅野前学生部長同様よろしくお願ひ申し上げます。

後援会も発足以来早や十八年余が経ちました。それにつれ後援会活動も種々の事業を行い、学生生活や修学等に関し、積極的に支援してきました。なかでも学生団体連合会を中心とした学生行事や正課外教育活動等への支援の充実やクラブ・サークル活動の活性化には、目を見張るものがあります。さらに、最近では新入生研修行事に対する支援の拡大や就職活動に

も支援の輪を広げ、課外活動はもとより一般学生に対しても入学から卒業まできめ細かな支援活動を展開できるような体制を構築してきました。これら一連の後援会活動は、本学学生の大学生活をより充実させるために多大な影響を及ぼしています。同時に各々の学生の人格形成にも大いに効果を発揮するものと確信いたしております。

これもひとえに後援会のご支援の賜物であり、今後とも一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

武蔵工業大学後援会の会員にお知らせ

武蔵工業大学後援会 会長 相模静夫

平成17年4月から施行されました「個人情報保護法」の制定により、武蔵工業大学後援会(以下「後援会」という。)は、下記のとおり後援会会員(以下「会員」という。)の個人情報保護の取り扱いに関する基本方針(以下「基本方針」という。)を定め、後援会の活動を継続してまいります。会員の皆様は、この基本方針を熟知され、ご意見がある場合には、後援会事務局にお申し出下さい。

武蔵工業大学後援会の個人情報保護の取扱に関する基本方針

武蔵工業大学後援会は武蔵工業大学の教育方針に則り、大学と父母との連携を緊密にして子女の修学および学生生活の向上を助け、並びに大学のその他の活動を後援して大学の発展の寄与と会員相互の親睦を図ることを目的として活動しています。

本目的を実行するために会員の個人情報(会員データ)の取得と使用を行います。個人情報保護の取扱に関し「個人情報保護法」の遵守の基本方針で、以下の項目を取り扱います。

- | | |
|------------|--|
| 1.会員データの取得 | 会員の個人情報は、大学から提供される会員のデータを基に取得する。 |
| 2.会員データの管理 | 会員の個人情報は、後援会事務局が責任をもって管理する。 |
| 3.会員データの使用 | 会報の送付並びに理事会、評議員会および緊急奨学金に関する連絡など後援会活動に使用する。 |
| 4.会員データの公開 | 会員データの公開は行わない。 |
| 5.その他 | 以上のほか、新たな事項や疑義事項が生じた場合には、会長と事務局長とが協議・対応し、必要事項は会員に通知する。 |

(平成18年度評議員会にて決定)

◆平成18年度◆ 「大学と父母との連絡会」のお知らせ

全国24ヶ所
で開催

後援会と大学との共催により平成18年度「大学と父母との連絡会」を下記の24会場で開催します。大学側から教職員の方が出席され、教育方針や現況等について説明していただくと共に、在学する子女の修学および学生生活上の諸問題について懇談することを目的としております。奮ってご出席ください。

平成18年度「大学と父母との連絡会日程および会場」

開催地	開催日	時間	会場
札幌	9月 2日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	札幌全日空ホテル 〒060-0003 札幌市中央区北3条西1丁目2-9 (TEL 011-221-4411)
青森	9月 2日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	青森グランドホテル 〒030-0801 青森市新町1-1-23 (TEL 017-723-1011)
仙台	9月 3日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテル仙台プラザ 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-20-1 (TEL 022-262-7111)
郡山	9月 2日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテルハマツ 〒963-8578 郡山市虎丸町3-18 (TEL 024-935-1111)
宇都宮	9月 3日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	宇都宮グランドホテル 〒320-0826 宇都宮市西原町142 (TEL 028-635-2111)
水戸	9月 2日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	三の丸ホテル 〒310-0011 水戸市三の丸2-1-1 (TEL 029-221-3011)
東京	9月30日(土)	受付開始 11:00 開 催 12:15~15:30	武蔵工業大学 世田谷キャンパス 〒158-8557 世田谷区玉堤1-28-1 (TEL 03-3703-3111)
横浜	9月30日(土)	受付開始 10:00 開 催 10:30~14:00	武蔵工業大学 横浜キャンパス 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-3-1 (TEL 045-910-2500)
高崎	9月10日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテルメトロポリタン高崎 〒370-0849 高崎市八島町222 (TEL 027-325-3311)
新潟	9月 9日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテルイタリア軒 〒951-8061 新潟市西堀通7-1574 (TEL 025-224-5111)
甲府	9月 9日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテル談露館 〒400-0031 甲府市丸の内1-19-16 (TEL 055-237-1331)
長野	9月 9日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテルJALシティ長野 〒380-0834 長野市問御所1221 (TEL 026-225-1131)
富山	9月10日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	名鉄トヤマホテル 〒930-0004 富山市桜橋通り2-28 (TEL 076-431-2211)
金沢	9月 9日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	金沢都ホテル 〒920-0852 金沢市此花町6-10 (TEL 076-261-2111)
三島	9月 2日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	三島グランドホテル 〒411-0035 三島市大宮町3-18-33 (TEL 0559-75-4300)
静岡	9月 3日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテルセンチュリー静岡 〒422-8575 静岡市駿河区南町18-1 (TEL 054-284-0111)
浜松	9月 2日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	オークラアクティホテル浜松 〒430-7733 浜松市板屋町111-2 (TEL 053-459-0111)
名古屋	9月 3日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテルキャッスルプラザ 〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-3-25 (TEL 052-582-2121)
神戸	9月10日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	神戸メリケンパークオリエンタルホテル 〒650-0042 神戸市中央区波止場町5-6 (TEL 078-325-8111)
広島	9月 9日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテルニューヒロデン 〒732-0821 広島市南区大須賀町14-9 (TEL 082-263-3465)
高知	9月 9日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテル日航高知 旭ロイヤル 〒780-0832 高知市九反田9-15 (TEL 088-885-5111)
福岡	9月 3日(日)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテル日航福岡 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-18-25 (TEL 092-482-1111)
鹿児島	9月 2日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ブルーウェーブイン鹿児島 〒892-0844 鹿児島市山之口町2-7 (TEL 099-224-3211)
那覇	7月15日(土)	受付開始 9:45 開 催 10:00~12:00	ホテルロイヤルオリオン 〒902-0067 那覇市安里1-2-21 (TEL 098-866-5533)